

よい羊飼いは命を捨てる

ヨハネによる福音 10:11-18

(そのとき、イエスは言われた。)「わたしは良い羊飼いです。良い羊飼いは羊のために命を捨てる。羊飼いでなく、自分の羊を持たない雇い人は、狼が来るのを見ると、羊を置き去りにして逃げる。——狼は羊を奪い、また追い散らす。——彼は雇い人で、羊のことを心にかけていないからである。わたしは良い羊飼いです。わたしは自分の羊を知っており、羊もわたしを知っている。それは、父がわたしを知っておられ、わたしが父を知っているのと同じである。わたしは羊のために命を捨てる。わたしには、この囲いに入っていないほかの羊もいる。その羊をも導かなければならない。その羊もわたしの声を聞き分ける。こうして、羊は一人の羊飼いに導かれ、一つの群れになる。わたしは命を、再び受けるために、捨てる。それゆえ、父はわたしを愛してくださる。だれもわたしから命を奪い取ることはできない。わたしは自分でそれを捨てる。わたしは命を捨てることもでき、それを再び受けることもできる。これは、わたしが父から受けた掟である。」

説教

その1 :

良い羊飼いは羊のためにいのちを捨てる、雇われ羊飼いは羊を置き去りにして逃げる、とあります。「捨てる」と「逃げる」これだけを取り上げればどっちもどっちですが、聖書テキストの意味はまったく違っています。良い・悪いとシロクロをつけています。しかし、人はこの教えに従い、よい羊飼いになることができるのか？

ペトロは言った。「主よ、なぜ今ついて行けないのですか。あなたのためなら命を捨てます。」イエスは答えられた。「わたしのために命を捨てるというのか。はっきり言っておく。鶏が鳴くまでに、あなたは三度わたしのことを知らないと言うだろう。」ヨハネ 13:37-38

すると、ディディモと呼ばれるトマスが、仲間の弟子たちに、「わたしたちも行って、一緒に死のうではないか」と言った。ヨハネ 11:16

ペトロもトマスも死ぬとっていますが、裏切ったり、疑ったりして死んではいません。人は自らすすんでいのちを捨てることはできない。もし死んでも犬死とはいいきれないが、イエスがいのちを捨てたようには人は死ぬことはできません。

だれもわたしから命を奪い取ることはできない。わたしは自分でそれを捨てる。わたしは命を捨てることもでき、それを再び受けることもできる。これは、わたしが父から受けた掟である。10:18

18節の意味は深いとおもいます。ここで説明をするのが説教なのでしょうが、わたしの力量では理屈で説明することができません。ただ深いとしかいいようがないのです。神秘に属する事柄だと思えます。聖職と呼ばれる司祭職であっても、人間である限り、雇われ羊飼以上者にはなれないでしょう。

その2 :

わたしは良い羊飼である。わたしは自分の羊を知っており、羊もわたしを知っている。10:14

犬は主人を知っています、主人が呼べば飛んできます。でも工サをちらつかせれば主人ではなくても犬はその人のもとに行きます。しかし、いかない犬もいる、その犬は訓練されているからです。人も犬のように訓練で良い羊飼（イエス）を見分けるようになるのでしょうか。わたしはそうは思いません。訓練された信仰などうさんくさいものです。人は訓練によって学ぶことも大切ですが、信仰は訓練によって完成するものではありません。

それでもイエスが自分の羊を知っているということはわたし達にとって、おおいなる慰めになります。わたしたちに喩えられている羊がイエスを知ることとは難しいことです。知っていると思い上がることなく、祈ることができ

ば、知ることができるようにと祈ることができればいいと思います。
